

第4学年2組 算数科 授業構想シート

令和6年5月24日(金) 4校時
授業者(松尾 宇哲)

- I 単元名
「わり算の仕方を考えよう」(本時 9/11時)
- II 本時の学習について
(1) ねらいとゴールイメージ

ねらい	めあて
2位数÷1位数=2位数の除法の暗算の仕方を計算のきまりを基に考え、説明することができる。	どうすれば74÷2を暗算でもとめることができるの?
まとめ	ふりかえり
74÷2のような暗算は数をよく見て、自分のやりやすい仕方ですればよい。	・分けて考えれば、今までやった暗算の仕方が使えるからできそう。 ・筆算をするように頭の中で考えれば、できそう。

(2) 展開

学習活動(○発問 ☆考えられる補助発問)・予想される児童の反応	※指導の工夫(○) と 評価(☆)
<p>1 「69÷3」を暗算で求める。 C: 3年生で習ったからできそう。 C: 十の位の6を3で割って2 9を3で割って3だから23</p> <p>2 「74÷2」を暗算で求める C: え・・・できそうだけど。 C: なんかさっきの問題と違うぞ。 C: 十の位が一回で割れない。 C: 筆算じゃないとできなさそう。</p> <p>3 学習課題を把握する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">めあて</p> <p>どうすれば74÷2を暗算でもとめることができるの?</p> </div> <p>4 見通しをもつ C: 70と4に分けてみればいかも C: 60と14に分けたほうが良さそう。 C: 筆算のように考えてみたら・・・</p> <p>5 個人思考 C: 私は「筆算の考え方」で暗算をしてみよう。</p> <p>6 3人ペアで話し合う C: 自分は60と14に分けて考えてみたけど、たしかに筆算の考え方でできそう。</p> <p>7 全体共有 計算できる数に分けて考える C: 74を60と14に分けてそれぞれを2で割ります。 C: 74を70と4に分けてそれぞれを2で割ります。 筆算の考え方を使って考える C: 筆算のように考えて7÷2=3...1 だから余った1と4で14になって2で割ると7 合わせて37になります。</p> <p>8 本時のまとめをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">まとめ</p> <p>74÷2のような暗算は数をよく見て、自分のやりやすい仕方ですればよい。</p> </div> <p>9 適用問題に取り組む。 ・42÷3を自分の求めやすい考え方で説明を書いて求める。</p>	<p>○既習事項を確認できるように、3年時に学習した一回の九九で割り切れる2位数÷1位数の割り算の筆算に取り組む。</p> <p>○既習事項とのずれを、明確にするために児童の声を吹き出しに書いたり、問い返しを行ったりする。</p> <p>○どの見通しを使って考えるか立場を決めて個人思考に取り組めるように、つかえる君を提示する。</p> <p>○求めた考え方を文章で整理して書けるように合言葉「マツダ」を提示する。(ノート) ※マ...まず ツ...つぎに ダ...だから ○「3...1で出てきた1はどのような数字か」「どうして60に分けようと思ったんだろう」など問いが連続するような問い返しを行う。 ○自分の筆算がしやすい計算方法が明確にできるように、納得した場所やポイント等が書かれている板書に自分のネームプレートを張る。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">☆評価基準B(評価方法)</p> <p>2位数÷1位数の暗算の仕方を、被除数を分解したり、被除数の相対的な大きさをとらえたりして既習の暗算の仕方に着目して考え、説明している。(ノート・発言)</p> <p style="text-align: center;">★〈Cの児童への手立て〉</p> <p>どの見通しを使って求めるか、決定できない児童がいることが予想されるため、どの考え方を使うか決められるように支援する。</p> </div> <p>○被除数を1の位が割り切れない2位数に設定することで単純に40と2に分けて割ることはできないというズレに気が付けるように促す。</p>

III 本時のポイント

既習事項を導入で取りあげたり、教師が問い返しや発問したりしたことは、子ども達の思考にずれを生み、仲間とともに探求していく課題として適切であったか。